第 5 0 期 決 算 公 告

令和 6年4月 1日から

令和 7年3月31日まで

貸 借 対 照 表
損 益 計 算 書
株 主 資 本 等 変 動 計 算 書
個 別 注 記 表

株式会社 森 本 組

貸借対照表

(令和7年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	30,150,593	流動負債	16,835,334
現金預金	6,823,691	支払手形	228,372
受取手形	796,425	電子記録債務	2,718,051
完成工事未収入金	21,311,355	工事未払金	6,364,692
未成工事支出金	201,266	短期借入金	200,000
材料貯蔵品	9,882	未払金	701,772
短期貸付金	1,800	未払費用	67,188
前払費用	32,026	未払法人税等	426,189
立替金	801,155	未成工事受入金	2,106,591
その他	172,990	預り金	3,339,674
固定資産	1,321,753	完成工事補償引当金	97,832
有形固定資産	221,628	賞与引当金	185,268
建物	95,434	工事損失引当金	399,700
構築物	3,053	固定負債	1,883,001
工具器具・備品	83,877	退職給付引当金	1,481,207
土地	39,262	役員退職慰労引当金	26,570
無形固定資産	26,028	執行役員退職慰労引当金	26,120
電話加入権	0	長期未払金	341,103
ソフトウェア	26,028	その他	8,000
投資その他の資産	1,074,096	負債合計	18,718,335
投資有価証券	904,965	(純資産の部)	
長期貸付金	1,200	株主資本	12,640,843
長期前払費用	1,599	資本金	2,000,000
繰延税金資産	71,266	利益剰余金	10,640,843
その他	96,789	利益準備金	500,000
貸倒引当金	△ 1,725	その他利益剰余金	10,140,843
		別途積立金	1,500,000
		繰越利益剰余金	8,640,843
		評価・換算差額等	113,167
		その他有価証券評価差額金	113,167
		純資産合計	12,754,011
資産合計	31,472,347	負債・純資産合計	31,472,347

損益計算書

(自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日)

(単位:千円)

科目	金額	
完成工事高		38,978,535
完成工事原価		35,276,963
完成工事総利益		3,701,572
販売費及び一般管理費		1,761,277
営業利益		1,940,295
営業外収益		
受取利息及び配当金	19,611	
その他	7,608	27,220
営業外費用		
支払利息	7,579	
支払保証料	15,098	
その他	17	22,695
経常利益		1,944,820
特別利益		
固定資産売却益	647	647
特別損失		
固定資産除却損	0	
訴訟関連損失	22,343	22,343
税引前当期純利益		1,923,124
法人税、住民税及び事業税	660,700	
法人税等調整額	22,751	683,451
当期純利益		1,239,673

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1.資産の評価基準及び評価方法

- 1) 有価証券
    その他有価証券
    市場価格のない株式等以外のもの
        時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
    市場価格のない株式等
        移動平均法による原価法
- 2) 棚卸資産
    未成工事支出金   個別法による原価法
    材料貯蔵品   個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

2.固定資産の減価償却の方法

- 1) 有形固定資産
    定率法
    ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用している。
    なお、主な耐用年数は次のとおりである。

建物	3～47年
車両運搬具	3年
工具器具・備品	2～15年
- 2) 無形固定資産
    定額法
    自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっている。

3.引当金の計上基準

- 1) 貸倒引当金
    債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。
- 2) 完成工事補償引当金
    完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、過去の補償工事の実績を基礎に将来の補償工事の見込額を加味して計上している。
- 3) 賞与引当金
    従業員に支給する賞与に備えるため、当事業年度末日後の賞与支給見込額のうち当事業年度負担分を計上している。
- 4) 工事損失引当金
    受注工事の損失に備えるため、発生する工事原価総額の見積額が受注額を超過することが確実視され、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を計上している。
- 5) 退職給付引当金
    従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上している。
    過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理している。
    数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理している。
- 6) 役員退職慰労引当金
    役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上している。
- 7) 執行役員退職慰労引当金
    執行役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上している。

4.完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりである。

土木・建築事業においては、工事契約を締結している。工事契約に係る収益は、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法(履行義務の充足に係る進捗度の見積りは原価比例法)により収益を認識している。また、契約の初期段階を除き、履行義務の充足に係る進捗度の合理的な見積りができない工事については原価回収基準を適用している。なお、期間がごく短い工事については、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識している。

取引の対価を受領する時期は個々の契約により異なるものの、取下条件に従い、履行義務を充足してから概ね約1年以内に受領している。当事業年度において取引価格に重要な金融要素は含まれていない。

5. 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

1) 建設工事共同企業体(JV)工事の会計処理

建設工事共同企業体(JV)の会計処理については、建設工事共同企業体(JV)を当社の持ち分比率に応じて計算書類に取込む方式(取込み方式)によっている。

未適用の会計基準等

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 令和6年9月13日 企業会計基準委員会)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 令和6年9月13日 企業会計基準委員会) 等

(1) 概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFRS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFRS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別計算書類に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準等が公表された。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法については、IFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティングリースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用権資産に係る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用される。

(2) 適用予定日

令和10年3月期の期首から適用する。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による計算書類に与える影響額については、現時点で評価中である。

重要な会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りは、計算書類作成時に入手可能な情報に基づいて合理的な金額を算定している。当事業年度の計算書類に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌事業年度の計算書類に重要な影響を及ぼすリスクがある項目は以下のとおりである。

1.一定の期間にわたり収益を認識する方法の適用(原価回収基準の適用を除く)及び工事損失引当金の計上における工事原価総額の見積り

1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

当事業年度の計算書類に計上されている完成工事高 38,978,535千円のうち、一定の期間にわたり収益を認識する方法(原価回収基準の適用を除く)により計上した完成工事高の金額は 36,726,470千円、工事損失引当金は 399,700千円である。

2) 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

工事契約に関して、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法(履行義務の充足に係る進捗度の見積りは原価比例法)を適用している。一定の期間にわたり収益を認識する方法の適用にあたっては、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができる必要があり、そのためには特に工事原価総額を合理的に見積もる必要がある。

また、受注工事の損失に備えるため、発生する工事原価総額の見積額が受注額を超過することが現実視され、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を工事損失引当金として計上している。

工事契約は基本的な仕様や作業内容が顧客の指図に基づいて行われるため、契約内容の個別性が強いという特徴がある。そのため、一定の期間にわたり収益を認識する方法の適用及び工事損失引当金の計上において考慮する工事原価総額の見積りにあたっては、全ての工事契約に適用可能な画一的な判断尺度を得られにくく、工事原価総額の見積りには高い不確実性を伴う。

工事原価総額の見積りの見直しが必要となった場合には、翌事業年度の完成工事高及び工事損失引当金の計上額に重要な影響を及ぼす可能性がある。

貸借対照表に関する注記

1.有形固定資産の減価償却累計額 289,936 千円

2.保証債務

下記の会社の分譲住宅販売に係る手付金等受領額に対して、信用保証会社へ保証を行っている。
株式会社コーセーアールイー 17,500 千円

3.関係会社に対する債権債務

短期金銭債権 124,072 千円
短期金銭債務 342,915

損益計算書に関する注記

1.完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額 105,323 千円

2.関係会社との取引高

営業取引高

完成工事原価 3,274 千円
販売費及び一般管理費 2,630

営業取引以外の取引高

支払利息 4,487 千円

株主資本等変動計算書に関する注記

1.発行済株式総数に関する事項

普通株式 4,000,000 株

2. 配当金に関する事項

当事業年度中に行った剰余金の配当

令和6年6月28日開催定時株主総会決議

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	676,000	千円
配当の原資	利益剰余金	
1株当たり配当額	169.00	円
基準日	令和6年3月31日	
効力発生日	令和6年6月28日	

事業年度の末日後に行う剰余金の配当

令和7年6月30日開催定時株主総会決議

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	868,000	千円
配当の原資	利益剰余金	
1株当たり配当額	217.00	円
基準日	令和7年3月31日	
効力発生日	令和7年6月30日	

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

退職給付引当金	465,608	千円
工事損失引当金	124,972	
賞与引当金	56,290	
完成工事補償引当金	30,311	
未払事業税	25,376	
投資有価証券評価損	17,831	
役員退職慰労引当金	8,315	
執行役員退職慰労引当金	8,180	
その他	20,718	
繰延税金資産小計	757,604	
評価性引当額	△ 616,516	
繰延税金資産合計	141,087	

繰延税金負債(△)

その他有価証券評価差額金	△ 61,076	千円
営業譲受資産受入差額	△ 8,744	
繰延税金負債合計	△ 69,820	
繰延税金資産の純額	71,266	

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用について短期的な預金等に限定している。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び完成工事未収入金は、顧客の信用リスクに晒されている。

立替金は、主に工事に係る取引に基づいて発生した受取手形や完成工事未収入金等以外の債権であり、相手先の信用リスクに晒されている。

当該リスクに関しては、取引先ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、主要な取引先の信用状況を適時把握する体制としている。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されているが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されている。

営業債務である支払手形、電子記録債務、工事未払金及び預り金は、そのほとんどが1年以内の支払期日である。

短期借入金は、主に運転資金に係る資金調達である。

2.金融商品の時価等に関する事項

現金は注記を省略している。また、預金、完成工事未収入金、電子記録債務、工事未払金、未成工事受入金及び預り金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略している。

関連当事者との取引に関する注記

1.関連当事者との取引

(1)親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	議決権の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	大豊建設(株)	被所有 直接 100%	資金の借入	資金の借入(注1)	3,000,000	-	-
			建設工事共同企業体の組成	資金の返済(注1)	5,000,000	-	-
			役員兼任	利息の支払	4,487	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 資金の借入条件については、市場金利を勘案し決定している。なお、担保は差し入れていない。

1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額

3,188円50 銭

1株当たりの当期純利益

309円92 銭